

美しい森林づくり

クロマツ林再生と森林環境教育の取組

由利森林管理署

由利森林管理署は、秋田県の南西部に位置し子吉川を主要河川とした鳥海山北西地域、由利本荘市及びにかほ市の国有林約23千haを管轄しています。

日本海沿岸のクロマツ海岸林（304ha）は地域社会を守る森林として重要な役割を果たしています。

しかし、昭和58年以降の松くい虫被害及び平成10年の豪雪等により大きな被害があり、その再生を治山事業により実施しています。また、その一部を小学生、高校生やボランティア団体等に植栽・保育の場として提供し森林環境教育に取り組んでいます。

○小学校の森林環境学習



つる切りを体験する小学生

平成17年に由利本荘市教育委員会と締結した「遊々の森（未来につながる森）」において、毎年市立鶴舞小学校の5年生児童を対象に、クロマツ等の植栽、下刈、つる切り作業の体験や植物観察、森林の働きなど森林環境学習を実施しています。昨年は、9月に児童62名が参加してつる切り作業を体験してもらい「木が二酸化炭素を吸収して酸素を出すことを知って驚いた」「慣れるとつるを簡単に切ることが出来た」などの感想文が送られてきました。

○高校生の林業体験



本数調整伐を体験する高校生



自然観察（あがりこ大王）

秋田県立矢島高校における総合学習の一環として「地域の自然にふれあい環境問題を考え合う」というテーマで、森林環境教育を毎年春と秋に学校側の要請により実施しています。5月は、水林国有林において高校生が松くい虫被害森林の再生活動の一部を担うことにより「環境への関心を深め地域へ貢献してもらおう」ことをねらいとして、1年生34名がクロマツ林の本数調整伐作業を体験、「初めてで大変な作業だったが達成感がある」などの感想がありました。

9月には、鳥海自然休養林「中島台地区」において、巨木百選「あがりこ大王」を中心とした異形ブナ林及び鳥海山の火山

活動で形成された国指定天然記念物「鳥海山獅子ヶ鼻湿原植物群落及び新山溶岩流末端崖と湧水群」の自然観察を実施し、地域の自然・森林のすばらしさを体感しています。

○社会貢献の森での育樹活動



慣れない枝打作業の銀行員



作業後の銀行員と家族

秋田銀行では、創業130周年記念事業の一環として、松くい虫被害を受けた水林国有林の再生を目的とした協定を平成21年に当署と締結し、平成21、22年にクロマツを植栽しました。（後に社会貢献の森（あきぎんの森）として協定）

その後、銀行職員とその家族70名程度の参加によりクロマツ林の下刈作業を行っています。本年度は7月に、成長とともに枝が伸び互いを被圧しているため枝打と下刈作業を実施しました。慣れない鋸を使つての枝打作業によりキレイに見通せる林に変わり、「マツが成長しているのを見るのがうれしい」と話していました。当署では毎年クロマツ林の必要性や道具の使い方などを指導し活動をサポートしています。

○森林ボランティア団体等による森林環境活動



クリーンアップに参加した皆さん



本荘海岸林を守る会の下刈作業

林野庁が進める「国民の森林・クリーン活動」の一環として、森林ボランティア団体「本荘海岸林を守る会」、東北森林管理局フォレストボランティア員及び秋田県林業土木協会約30名の協力を得ながら、本荘海岸林における清掃活動を毎年7月に実施しています。海水浴場の周辺箇所もあるため海開きの前に実施することとし、捨てられた空き缶やペットボトル等トラック一杯のゴミを収集・処分しました。

また、「本荘海岸林を守る会」は活動の一環としてクロマツを植栽し、7月の暑い中、毎年下刈作業を実施しています。

今後も、国有林のフィールドを活用した森林環境教育やボランティア活動への支援を通じ、将来を担う子供達や地域の人達に、森林・林業に関する理解を得られるよう取り組んでいきます。